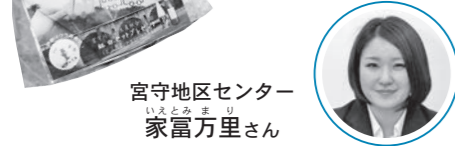


地域活動専門員日誌

SLクッキーや特産品でおもてなし

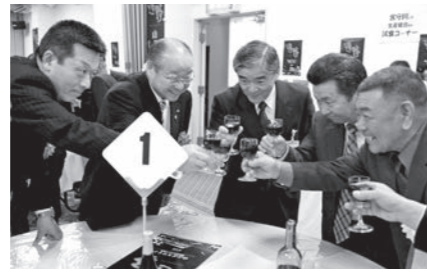


上/クッキー作りに取り組む地元女性 左/完成したクッキーは、ラッピングを施して配布しました



宮守地区センター
家富万里さん

SL 銀河が運行開始した4月12日、宮守駅で手作りの「SL おからクッキー」や野菜ジュースなど地元の特産品を乗客に配り、もてなしました。クッキーは、宮守川上流生産組合から無料で提供いただいたおからを材料に製作。SL 形に成形し、約200枚を焼き上げました。当日は、制作に携わった地元の女性らと一緒に配布。大盛況で、瞬く間に品切れとなりました。今後も、地域の素材を生かしたおもてなしを展開していきます。



出荷を祝い乾杯する関係者

山ぶどうワイン初飲み会開催

女性にもおすすめ！



2013遠野山ぶどうワイン初飲み会(JAいわて花巻遠野地域特産生産部会主催)は3月25日、JAとおのライフサービス生活センターで開催されました。山ぶどう生産者や関係者など80人は、同ワインのさわやかな味わいを堪能しました。2013年産

は香り、味わい、色合いのバランスが良く、過去最高の出来栄え。飲みやすいので、女性にもおすすめです。価格は2,160円(720ml)から。市内の酒販店などで販売しています。

株式会社オサダの社員らが美化活動

回収されたごみの一部



急な斜面でタイヤを引き上げる関係者

青笹町に事業所がある株式会社オサダ(長田豊代表取締役社長、東京都)が主催する美化活動は4月19日、笛吹峠と立丸峠付近で実施されました。社員や地域住民ら170人が参加。地域貢献の一環で毎年行われ、6回目を迎えました。今回は初めて立丸峠

でも実施。手作業で行われ、4時間でトラック4台分のごみが集められました。同社員の但野詩織さん(21)=青笹町=は「毎年ごみの量に驚いています。回収した後は、さっぱりして気持ちがいいです」と満足した様子でした。



家族らに祝福される堀切さん(前列右から3番目)

家族に囲まれ長寿を祝う

松崎町の堀内さんが100歳

堀内ハルさん=松崎町=の100歳を祝う会は3月29日、自宅で行われ、家族や本田市市長がハルさんの長寿を祝いました。本田市市長が花束と記念品を贈り「これからは元気で長生きしてください」と祝福すると、ハルさんはにっこり。「元気で暮らせるのは家族の支えのおかげ。本当にありがとうございます」と感謝しました。ハルさんは大正3年に土淵町に生まれ、19歳のとき菊松さん(故人)と結婚。家業の農業に励みながら3男2女を育て、孫10人、ひ孫12人に恵まれました。現在も庭の草取りを日課にするほど元気で、家族と一緒に晩酌をするなど、楽しく過ごしています。



遠野さよくおでんした！

市民総出でお出迎え SL 銀河運行開始！



1_ 遠野駅ではお出迎え隊が乗客に記念品を贈呈 2_ 板沢しし踊りも披露されました 3_ SLに手を振る市民ら 4_ 乗客らに昔話を披露する語り部ボランティア 5_ 宮守駅では、地元の下郷さんさ踊りやカントリーダンスがお出迎え



昔、あったずもな。

ようこそ遠野へ！

JR 東日本によるSL 銀河の定期運行は4月12日、釜石線の花巻-釜石間で開始されました。停車する宮守駅と遠野駅では、市民らによる多彩なイベントが行なわれ、乗客をもてなしました。
宮守駅では、下郷さんさ踊りやカントリーダンスがお出迎え。また、地元有志らが手作りクッキーや特産品を乗客に振る舞いました(次ページ参照)。遠野駅では、市民らによるお出迎え隊が「よくおでんした」と乗客に記念品をプレゼント。駅周辺では、板沢しし踊り保存会が勇壮な舞を披露したほか、遠野語り部の会の会員が乗客らに昔話を聴かせるなど、多彩なイベントで歓迎しました。
また、宮守町のめがね橋付近は、絶好のロケーションを求める鉄道写真愛好家(通称、撮り鉄)で混雑。線路沿いには多くの市民が駆け付け、復興を後押しするSLの力強い走りに、盛んに手を振っていました。遠野駅でお出迎えした松田和子さん(72)=中央通り=は「遠野らしいおもてなしでSL運行を応援することが、復興支援につながるはず。今後も、心を込めてお出迎えしていきたい」と抱負を語りました。

SL 運行をたすきでPR

花巻-釜石間で交流駅伝

SL 銀河の定期運行をPRする花巻-釜石間交流駅伝(同実行委員会主催)は4月6日、JR花巻駅から釜石駅までの約100kmの区間で開催されました。花巻、遠野、釜石、住田の3市1町の市民ランナー24人が参加。ランナーは、SL 銀河の定期運行の成功を願い、JR釜石線の沿線をたすきでつなぎました。あいにくの雪と強風にも負けず、参加者は各区分を力走。予定より1時間以上早い6時間52分でゴールしました。菅田宏徳さん(23)=綾織町=は「被災地の復興を願いながら走りました。内陸の熱い思いが、沿岸にも届いたはず」と汗をぬぐいました。



沿道の熱い声援を受け、力走する選手